第 77 回 ここからカフェ九品仏

足の健康を考えましょう

いつまでも、自分の足で歩く幸せに向かって足のことで不安のある方にお伝えしたい聞いて得するお話です！！

日時：2024 年 9 月 28 日（土）
13:30 ～ 15:30
会場：九品仏複合施設 2 階
講師：高齢者ケア推進協会会員
看護師　波田野淑恵さん
参加費：300 円　　※要予約
申込：090-3961-8514（湯澤）

第 102 回 お隣さまお茶会

音楽で元気になろう

音楽療法士日丸さんと楽しいひと時を！

日時：2024 年 9 月 9 日（月）
13:30 ～ 15:30
会場：スペースえんがわ inn
講師：日丸真さん
音楽療法士（ふくろうクリニック）
参加費：500 円　※要予約
申込・問合　03-3721-8699
玉川まちづくりハウス

第 50 回 玉田シニアサロン

林泰義を読む
日時：2024 年 9 月 1 日（日）
14:00 ～ 16:00

第 51 回 玉田シニアサロン

わがまちを悩ませるノン・ヒューマンな課題
鶏、ノラ猫、スズメバチについて
話し合ってみたいと考えています。
日時：2024 年 10 月 6 日（日）
14:00 ～ 16:00

どちらも
会場：玉川田園調布会館
講師：伊藤雅春（玉川まちづくりハウス）
参加費：500 円
申込・問合　03-3721-8699
玉川まちづくりハウス

ハウスの会員数

特別正会員	5 名
正会員	28 名
ニュース会員	69 名

９月号にかかわったひと

伊藤雅春　染野和夫
月成麻未　髙橋阿貴
小西玲子　柴田希美絵
昆野敬子

8 ハウススケジュール＆プレイバック

予定・詳細は HP　https://tamamati.com/ にてご確認ください

１日（木）	楽多の会定例会 / デイ・ホーム玉川田園調布
４日（日）	玉田シニアサロン / 玉川田園調布会館
８日（木）	住宅まちづくり総合相談 / 玉川総合支所
１７日（土）	ここからカフェ九品仏　/ 九品仏複合施設 2 階
２２日（木）	住宅まちづくり総合相談 / 玉川総合支所
	せたがや防災 NPO アクション事務局会議 / オンライン

9 ハウスカレンダー

９日（月）	お隣さまお茶会 13:30 ～ 15:30	スペースえんがわ inn
１２日（木）	住宅まちづくり総合相談 13:30 ～ 15:30	玉川総合支所
１３日（金）	玉川まちづくりハウス定例委員会 9:30 ～ 11:00	スペースえんがわ inn
１５日（日）	タマデン marchè 15:00 ～ 18:00	アビターレ前
１８日（水）	街角保健室@スペースえんがわ inn 13:30 ～ 15:30	スペースえんがわ inn
２４日（火）	街角保健室ハートフルサロン「kotori」 13:30 ～ 15:00	スペースえんがわ inn
２６日（木）	住宅まちづくり総合相談 13:30 ～ 15:30	玉川総合支所
	せたがや防災 NPO アクション事務局会議 18:00 ～ 20:00	オンライン
２８日（土）	ここからカフェ九品仏 13:30 ～ 15:30	九品仏複合施設 2 階
２９日（日）	「林泰義さんを語り合う会」 13:30 ～ 16:00	玉川区民会館

ハウスの最新の情報は HP をごらんください

HP : https://tamamati.com

玉川まちづくりハウスニュース
みんなでホイッ！
9 2024
no.346
発行　特定非営利活動法人玉川まちづくりハウス

〒 158 - 0085
東京都世田谷区玉川田園調布 2-11-10　Email　house@tamamati.com
tel.03-3721-8699　fax.03-3721-8986　URL https://tamamati.com

玉川まちづくりハウスは、住民主体のまちづくりをお手伝いする特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）です。

「林泰義さんを語り合う会」のことなど　　伊藤雅春

昨年 12 月 8 日に林泰義さんが急逝され、玉川まちづくりハウスの定例会議に林さんがいない…ということになりました。

玉川まちづくりハウスと住宅遺産トラストは、林さんが残してくれた希望だったのだと思います。玉川まちづくりハウスは地域型のまちづくり活動として、住宅遺産トラストはテーマ型のまちづくり活動として。

9 月 29 日に等々力の玉川区民会館で林さんの会社㈱計画技術研究所と共催という形で「林泰義さんを語り合う会」を開催することになりました。

今、林さんが様々な冊子等に書き残した文章を整理しています。（阪神淡路大震災後の 1996 年～ 2007 年までの 10 年間）年代順に文章のタイトルを整理してみると林さんの関心の変遷が明確に伝わってきます。

「せたがやまちづくりセンター構想」に始まり、震災復興支援、アメリカ NPO 視察、まちづくり NPO の実践、「新しい公共」概念の提起、市民バンクの展開へと林さんの目標とする市民社会実現に向けた活動は力強くそしてめまぐるしく 30 年という時間の中で展開してきました。

林さんは、まちづくりはコミュニティを育てることだと繰り返し書いています。日本全体を見ると各地のまちづくりの様相は、林さんたちの活躍によって、ゆっくりとですが大きく変わったように思います。一方、私たちの住むこの地域が変わったと感じている人はどれほどいるでしょうか？

この 30 年間、僕自身はまちづくりとコミュニティの在り方に大きな変化が起きているように感じているのですが、人々の意識の中にこの変化が共有されているかについては、正直わからないと答えるしかありません。

地域空間としてのコミュニティを考えた場合、人と人の関係は具体的な『場』によって媒介されると考えることができます。つまり『場』があることでいろいろな人に出会う機会が生み出されるわけです。林さんの考えていたコミュニティに根差した活動とはこうした『場』に支えられた、あるいはこうした『場』から絶え間なく生み出されるまちづくり活動の事だと思います。

玉川まちづくりハウスはこうした多様な質を持ったたくさんのコミュニケーションの『場』を生み出すことでコミュニティを耕してきたつもりなのですが。

9 月 29 日の「林泰義さんを語り合う会」に先駆け、9 月 1 日の「玉田シニアサロン」で、こうしたことを語りあえたらと思っています。

八幡ファーム　消火水槽放水訓練

8月4日(日)　コロナ禍もあけたので、2018年から6年ぶりに、ハウス事務局のお向かいにある八幡小学校の畑、八幡ファームの地下に備えられている防火水槽を使って、玉川田園調布町会ポンプ隊の訓練が開催され、参加しました。

道路側の門扉から入ったすぐに水槽の蓋があり、長い間使用していないとのことでしたが、開けると臭いもなくきれいな水が蓄えられていました。交代でホースを持ちましたが、支えるのにずいぶんと力がいりました。

ハウスニュース8月号で「八幡ファームを地域の庭に」、と書きました。実際に役立つような災害がないことを祈りますが、たしかに「ここにこんな装備がある」ことをもっと御近所に知ってもらいたいと思いました。

子どもたちに採ってもらえなかったミニトマトがたくさん残っていて、お土産にもらってしまいました。

戦後79年　戦争の体験を聞く会

8月17日(土)13:30～15:30、ここからカフェ九品仏は地域の高齢の方に集まっていただいて、ご自身の戦争体験をお話しいただくという企画でした。

この暑い夏の盛りに来ていただくのはどうか？まして台風の情報もあり開催を若干ためらう気持ちもあったのですが、集まっていただいた89歳から96歳のみなさん、終戦時は9歳から17歳だったわけですが、 矍鑠(かくしゃく)という言葉がぴったり、軍需工場に勤めていらした様子、被災した家屋の消火活動、軍国主義の教育、食の貧困、疎開先での虐め、軍利用の小学校の清掃作業、子どもながらに外国人の様子と周囲の変化におかしいなあと思ったことなど、参加者一同聞き入ってしまいました。戦時下に空から落ちてきた、トルーマンの名前入りの戦争ビラを持参された方もいらっしゃいました。

世界各地で起きている戦争の話題にどうしていいのかわからない気持ちになりますが、語り続けていただけるよう、私たちは聞き続けていく姿勢をもち続けたいと思いました。

暮らしのつぶやき　9月

五島列島

長崎の五島列島に旅行に行ってきました。博多・長崎から飛行機とフェリーでアクセスできる島で、古いキリスト教の教会が世界遺産に認定されていたり、地盤が動いてできた島の海岸線が国定公園になっていたり、美しい景色が多い素敵な場所でした。

驚いたのは、インバウンドの観光客の方がほぼいなかったことです。これからもっと知られると、多くの人が訪れる場所になるのでしょうか。

腰を軽く

ずっと購読しているメルマガがあって、たまに筆者が読んだ本が紹介されています。この前本屋に立ち寄った時に、丁度このメルマガで紹介されていた本が目に入って、思わず手に取ってしまいました。

最近はなかなか紙の本を手にすることが少なくなっているのですが、こんな風にタイミングがいいと、ちょっと読んでみるか、という気持ちになります。こういう時に腰軽く色々な事に手を出せる状態でいたいです。

地域 GAYAGAYA

地域の動きや、話題を地域の方々に手伝っていただいて紹介していくコーナーです。

地域ga ya ga ya

地域の歴史を辿る
その２２

第２２回　玉川全円耕地整理事業・パート②＞　奥沢地誌保存会・染野和夫

設計技師・高屋直弘氏

大正12年（1923年）1月、玉川村第7代村長に就任した豊田正治氏は、村の有力者たちと共に玉川村全域を対象とした耕地整理を構想し、同年5月開催の玉川村村会でこの土地開発事業の企画を議決します。

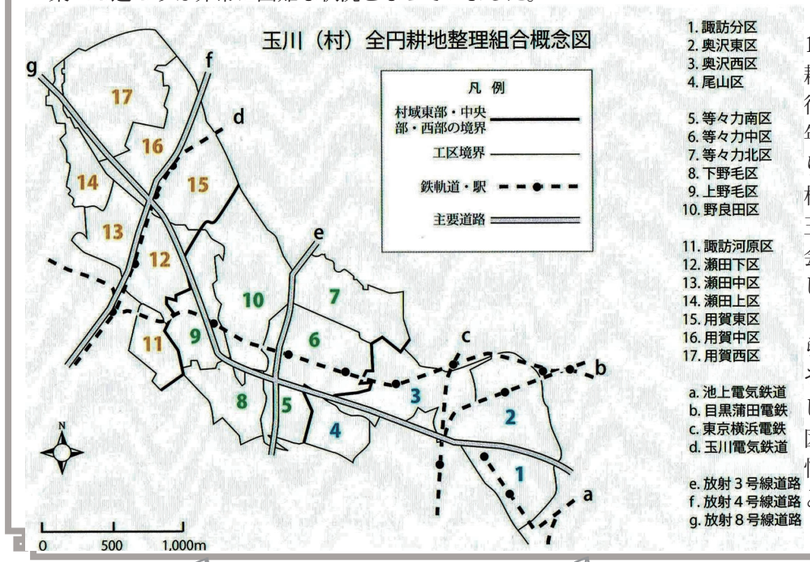
そして、事業の基本計画の作成と、事業推進の為の組合設立に向けての準備を開始することになります。

基本計画の作成は、当時耕地整理の専門家として知られた元東京府の技師である高屋直弘氏に依頼します。

高屋直弘氏は、明治19年（1886年）高知県の旧土佐藩士高屋家に生まれました。長じて東京府農業技手となり数多くの耕地整理事業を手がけています。そして大正7年（1918年）高屋事務所を設立し、専ら耕地整理の請負業に従事し活躍しました。

同氏は豊田村長の切なる懇願を受け、組合の設立から完成に至る事業の一切を請け負い、豊田村長（初代組合長となる）と共に耕地整理事業の完成に身を捧げました。

その後、この構想の計画内容が明らかになると、村民たちの間から壮大な計画への猛烈な反対運動が起こりました。特に、純農村地帯で宅地化の進展を実感できなかった玉川村西部地域や年長者、小作農家などに反対する者が多かったようです。そして反対運動により、村内の対立で村の祭礼が出来なくなったり、子どもを村の小学校に通わせず、別の場所で学ばせたり、豊田村長が暴漢に切りつけられたり、村内で明治以来続いていた政党がらみ（政友会と憲政会）の対立感情が加わり、賛成派と反対派にわかれて抗争する事態になるなど、耕地整理事業への道のりは非常に困難な状況となっていました。



この間、大正13年（1924年）11月に東京府に対して玉川全円耕地整理組合の設立認可申請を行い、1年後の大正14年（1925年）11月に組合の設立認可がおり、翌大正15年（1926年3月、村会議決から3年後に、やっと玉川全円耕地整理組合の創立総会が開催され、組合が発足しました。

組合発足後も反対の声は収まらず村内対立も起きていました。そこで全村同時の事業化は断念し、大字を単位として17の工区に分け、各工区に実施の主体性を持たせて事業推進を図ることになります。

夏を感じる食べ物

夏にしか食べようと思わないし、食べると夏を感じるものがいくつかあります。西瓜、玉蜀黍(トウモロコシ)のような季節の果物や野菜。チョコミントアイスやかき氷など、夏になるとコンビニなどでよく見るお菓子。食べる状況とセットで、夏の記憶として焼きついているものたち。

一度も食べないまま夏が終わってしまわないようにしなきゃと思って、つい手を伸ばしてしまいます。

甲子園

野球に全く詳しくないのですが、今年は旅行中の車内で甲子園の実況を聞く機会があり、その流れで何となく家で試合を見ました。

会社でその話題になり、詳しい人にルールの変更の話や、各学校ごとの背景などを教えてもらったりして、面白いなと感じました。ただ試合を見ているだけではなくて、どうしてそうなったのか？昔はどうだったのか？という全体を楽しむものなんだなと再確認しました。（貴）